

※堅志学とは三原高校における「総合的な探究の時間」の呼称です。

「三原高校で学んだ私たちの力で、もっと社会を良くすることができる」

この思いの下、2年生を中心に総合的な探究の時間（堅志学）で、社会への貢献を目指したプロジェクト学習を行っています。令和元年に始まったプロジェクトも今年で4年目になりました。最初は「小さな一歩」でしたが、三原市役所や県立広島大学など地域の方々と協働することで、プロジェクトの根は確実に深く強くなってきています。

【令和4年度のプロジェクト】

三原すくすくプロジェクト

「人口減少問題」の解決のために、子育て支援の分野で必要な取組を見童館などと連携しながら実践を目指します。

三原あそまなびプロジェクト

子どもたちに「学ぶことは楽しい」と思ってもらえるような企画を高校生の目線で実施することで、「学びの町三原」の実現を目指します。

三原すこやかプロジェクト

年齢や障害の有無に関わりなく、誰もが健康で充実した生活をおくることができる医療・福祉の充実を目指します。

みはら2030プロジェクト

地域経済分析システム(RESAS)や動画配信など駆使して、三原の発展のための政策を検討し、地域活性化の実現を目指します。

生徒は自分の興味関心や進路目標を踏まえて、プロジェクトを選択しています。

県立広島大学の先生によるプロジェクト学習入門講座を実施しました。

希望するプロジェクト

みはら2030プロジェクト

志望

三原市立第三中学校出身のある生徒

私は将来動物愛護に携わる仕事に就きたいと考えています。現在問題になっている動物の殺処分を少しでも減らす取組を行いたいです。「みはら2030」に所属して地域で増えている空き家を利用して、動物にとっても地域住民にとっても「安心して住める街」にしたいです。

生徒は地域の抱える課題を自分自身と「結びつけ」、課題を「自分のこと」として考え、社会に貢献しようとプロジェクトに取組みます。

学生主体のプロジェクト型の研究を実践されている県立広島大学保健福祉学部高木雅之准教授を講師にお招きしました。大学での実践を踏まえて、プロジェクトの作り方・進め方について講義・演習をしていただきました。自分も周りも「楽しくわくわく」することが大切と教えていただきました。



昨年度からスタートした県立広島大学の学生さんと一緒に学ぶ「コラボプロジェクト」も今年はさらにパワーアップして進めます。